

山本県議の一般質問から

安全、くらし、人権を守る県政へ姿勢ただす

山本のぶひろ県議は6月13日、一般質問に立ち、熊本県の姿勢をただしました(質問項目は左表の通り)。

被災者の見守り等支援活動について健康福祉部長は、「仮設入居者に限らず、災害公営住宅

山本県議、補聴器購入補助を求める意見書の提案説明

山本のぶひろ県議は、「加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設を求める意見書」を、くまもと民主連合の鎌田聡議員と共同で提出し、提案理由を説明しました。

山本県議の一般質問項目

- ◎ 気候変動にともなう適応計画の策定を求める
- ◎ ダムによる治水政策の見直しを
- ◎ 危険な立野ダム建設は中止せよ
- ◎ 被災者に寄りそった住まい再建支援を
- ◎ 国民健康保険制度…保険料負担軽減のために
- ◎ LGBTについて…差別のない、誰もが自分らしく生きられる社会へ

高齢者、年金生活者にとって補聴器購入は負担が大きく、中には購入をあきらめてしまい、他者とのコミュニケーションを困難にし、うつや認知症の発症につながるケースもあります。兵庫県議会でも全会一致で採択された内容ですが、熊本県議会では自民・公明などの反対で不採択とされました。

県民の願い、自民・公明が反対し不採択に

6月県議会最終日の24日、提出された議案の採決がおこなわれました。山本のぶひろ県議は、会派「くまもと民主連合」の議員らとともに、補聴器購入に対し公的補助を求める意見書、沖縄での辺野古新基地建設中止を求める意見書を共同で提

出しましたが、自民党と公明党などの反対で不採択とされました。また、市民団体から出された10月からの消費税10%増税中止を求める請願も、同様に不採択となりました。

自民、公明などの反対多数で不採択とされた請願や意見書

- ◎ 10月からの消費税10%増税中止を求める請願
- ◎ 補聴器購入に対し公的補助を行なうよう求める意見書
- ◎ 沖縄県名護市辺野古における米軍新基地建設の中止を求める意見書

7、8月の無料法律相談会のお知らせ

日時 ・8月1日(木) 13時30分より
 ・8月26日(月) 13時30分より

場所 山本のぶひろ生活相談所
 (中央区渡鹿5丁目19-7)

弁護士 久保田紗和さん(熊本中央法律事務所)

事前の予約が必要です。お問合せは362-5181まで。

山本県議の議会論戦(詳細)はホームページでご覧ください

山本のぶひろ県議がおこなった議会質問や討論、県に対する申し入れや提言等の全文はホームページでご覧いただけます。「日本共産党山本のぶひろ (<http://jcp-k.com/>)」



河川氾濫で被害を受けた農地を調査する(左から)山本のぶひろ県議、甲斐康之益城町議=7月2日、益城町

河川氾濫による農地被害を調査 益城町

7月2日、山本のぶひろ県議は、豪雨により木山川が氾濫し、農地に土砂が流れ込むなどの被害が生じた益城町を訪ね、甲斐やすゆき益城町議とともに被災地を視察しました。

氾濫した箇所は橋梁工事のため一時的に堤防が途切れ、土のうが積まれていたところ、越水した洪水が土のうを押し流しました。県として早急な復旧作業と被害補償が必要です。

暮らしに希望を示す政治を

仮設住宅で、災害公営住宅入居後の家賃負担を心配している方のお話を伺いました。年金の受給額は2万円台ということで、これらの生活に不安が募るのは当然です。麻生財務大臣は国会で、自身は老後の年金の心配をしたことはないと言及されましたが、安倍首相は多くの国民が感じている将来生活への不安を理解することができのでしょうか。明日の暮らしに



希望が持てる施策こそ求められます。

想定を超える大雨あればダムは危険

県も否定せず 6月県議会一般質問で山本県議が指摘

日本共産党
山本のぶひろ 県議会だより

2019年
7月号

熊本市中央区水前寺6丁目18-1
電話 096-3333-2647
ファックス 385-0255
HP 「日本共産党 山本のぶひろ」

豪雨発生回数が
温暖化で増加

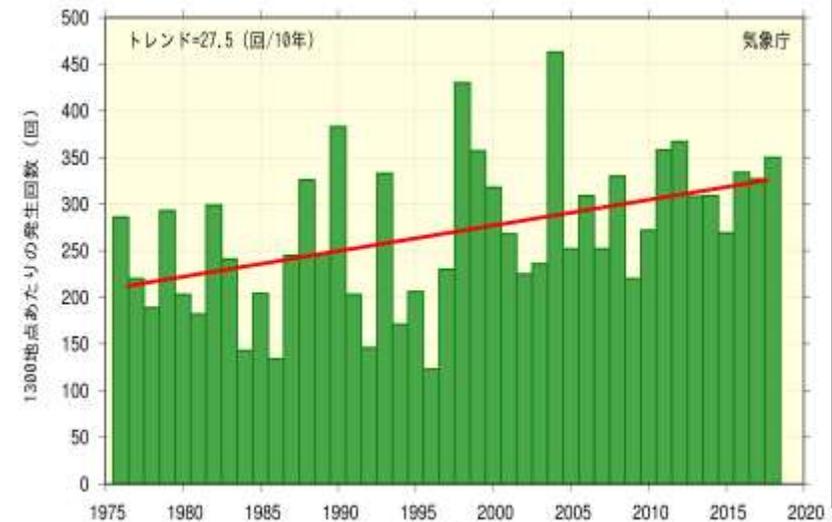
地球温暖化により気候変動が起こり、近年はこれまで経験したことのない大雨が頻発しています(下表)。15年に一度とか、200年に一度の降雨量を前提とした治水対策という考え方は通用しなくなっています。

ダム緊急放流で
災害が甚大に

山本県議は、ダムは貯水容量を超えるような想定

外の雨が降れば緊急放流せざるを得ず、逆に下流域に甚大な

(気象庁HPより) 全国 [アメダス] 1時間降水量50mm以上の年間発生回数



被害をもたらす危険性があると指摘。土木部長は山本県議の指摘を否定することはできませんでした。現在の気候変動を考えると、上流に水をためこむダムは極めて危険な構造物となるのではないのでしょうか。



ダム放流で急激に水かさが増した西日本豪雨災害時の肱川の様子(2018年7月、写真は南海放送より)

危険な立野ダムより河川改修を

土砂崩落続く
ダム建設地周辺

立野ダム建設地周辺の山腹斜面は、崩落が今も続発しています。3年前の熊本地震と豪雨災害で斜面崩壊が至る所に無数に生じ、ちよつとした雨でも崩落が続いているのです。ダム完成後に大量の土砂・岩石でダム放流孔がふさがれば、ごく短時間でダム湖は満水になり洪水調節機能を失ない、「ダム津波」が発生します。しかも、ダム完成後に、3年前を上回る規模の地震や豪雨が起らない



山腹崩落が頻発している立野ダム建設地周辺

ます。雄大な阿蘇の玄関口が人工的なコンクリートの構造物で固められることになります。

ダムより河川改修を

今急いで必要なことは河道が狭くなっている箇所の改修や橋の架け替えなど、災害危険箇所を解消すること。ダムより先に優先させるべきです。

太古の貴重な自然が
ダム工事で壊される

予定地の上流側には北向谷原始林という、国の天然記念物にも指定されている樹林などが存在します。しかしダム建設となると原始林は崩落対策の工事が入り、破壊されてしま

とは限りません。



質問をおこなう山本伸裕県議



橋梁個所で河道が狭められている三協橋付近